

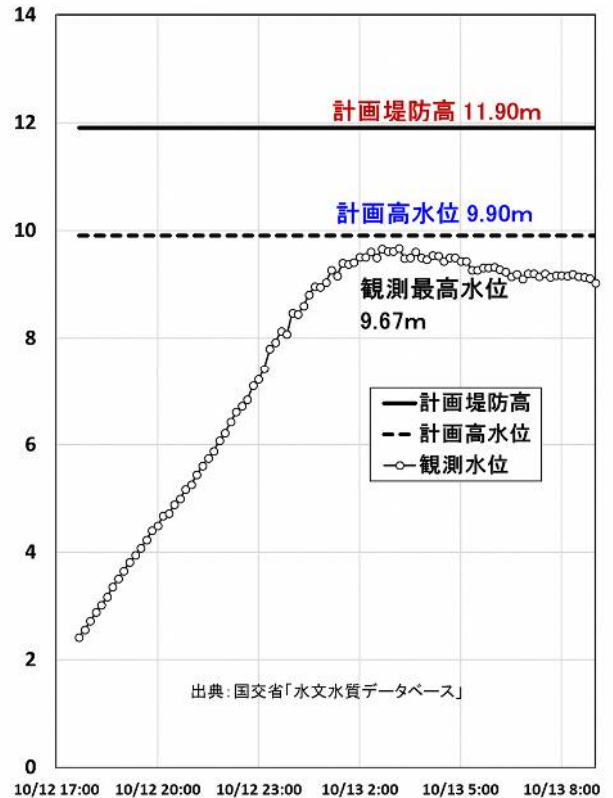
2019 年台風 19 号と渡良瀬遊水地

嶋津暉之

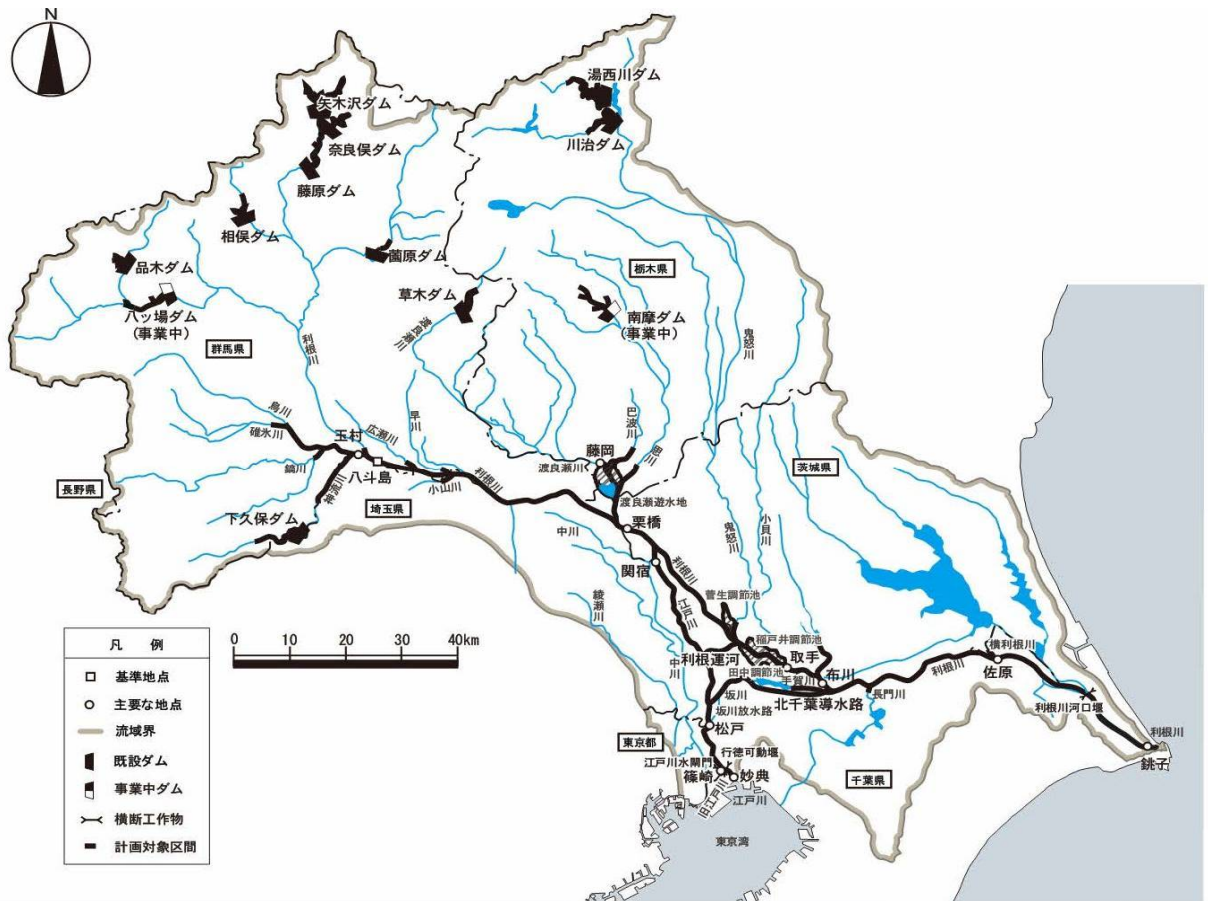
昨年 10 月の台風 19 号豪雨は東日本に大雨を降らせ、各所で河川が氾濫しました。利根川でも水位がかなり上昇しました。右図は利根川中流の栗橋地点の水位変化を見たものです。当時の最高水位は 9.67 m（観測所の基準面からの高さ）まで上りましたが、計画高水位より 33 cm 低く、堤防高は計画高水位から約 2m 上にありますので、まだ十分な余裕がありました。

本豪雨で利根川の水位を下げ、氾濫を防いだのは、試験湛水中の八ツ場ダムが洪水調節をしたからだという話がネット上で流れましたが、上流にあるダムの洪水調節効果は利根川の中下流に行くと、かなり減衰し

基準面からの高さm 利根川・栗橋地点の水位(2019年10月)



利根川流域図

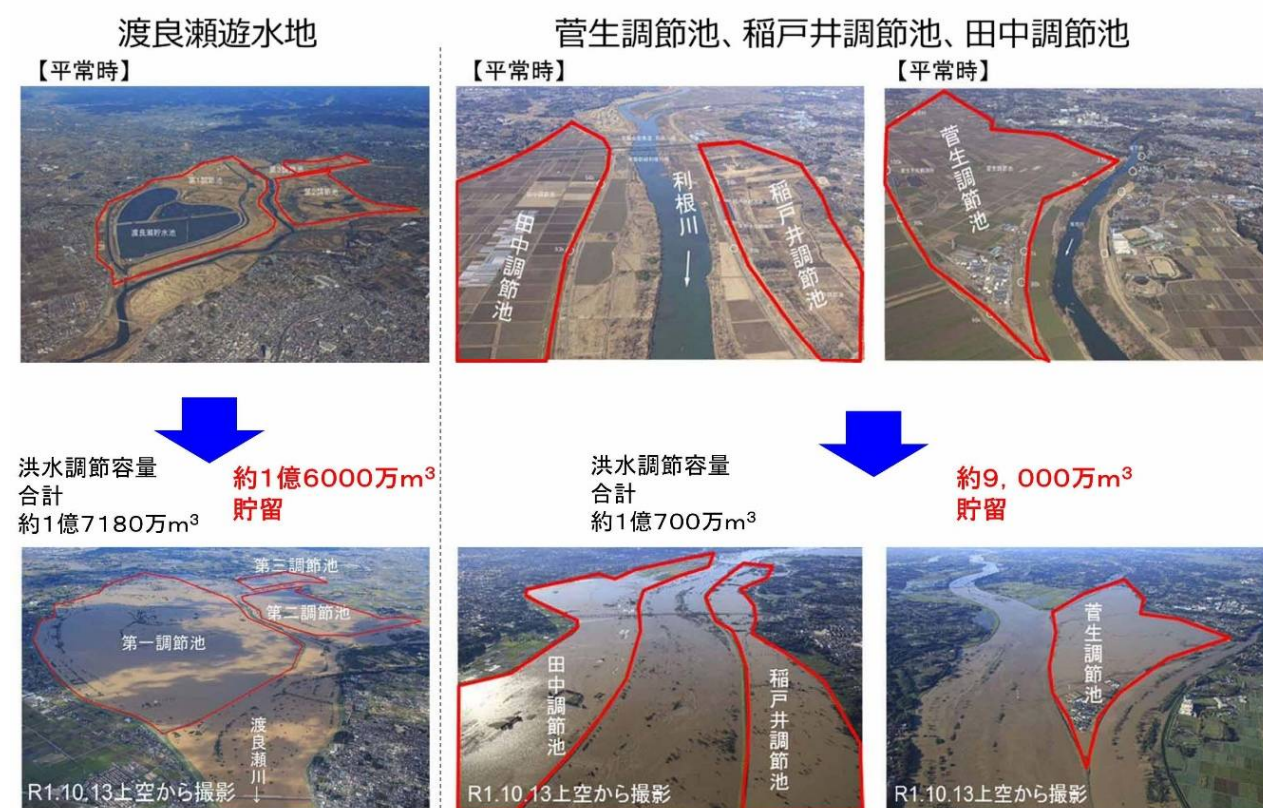


てしまうので、ダムの効果はさほどのものではありません。「八ツ場ダムのおかげで利根川が救われた」という話はフェイクニュースにすぎません。

一方、利根川中下流にある渡良瀬遊水地と菅生・稲戸井・田中調節池は有効に働いたようです。下記の通り、渡良瀬遊水地の貯留量は約1億6千万 m^3 、菅生・稲戸井・田中調節池の貯留量は約9千万 m^3 になりました。この三つの調節池は茨城県常総市、守谷市、取手市、千葉県我孫子市にあります。渡良瀬遊水地と三つの水調節池は利根川の中下流にありますので、その調節効果がそのまま働きます。

7. 洪水調節施設の効果 洪水貯留状況(利根川)

国土交通省関東地方整備局



(関東地方整備局 2019年11月6日)

渡良瀬遊水地の貯留量は次ページの表のとおり、過去最大です。1970年以降で今までの最大貯留量は2015年9月の1億731万 m^3 でしたから、今回の貯留量はそれを5,000万 m^3 以上も上回り、洪水調節容量1億7,180万 m^3 に近づきました。

利根川の栗橋地点は渡良瀬川の利根川合流点のすぐ下流にあります。栗橋地点の流域面積は8,588 km^2 、渡良瀬川の流域面積は2,621 km^2 ですから、渡良瀬川が31%を占めています。

渡良瀬遊水地による洪水調節によって渡良瀬川から利根川への洪水流入を抑えるようになっていきましたので、もし渡良瀬遊水地がなければ、栗橋地点の水位がかなり上昇したと考えられ、その点で、本豪雨で利根川の氾濫を防ぐ役割を果たしたのは、渡良瀬遊水地であったかもしれません。菅生・稲戸

井・田中調節池もそれなりの役割を果たしたようです。

今から約 100 年前に谷中村とその周辺の村を廃村にしてつくられた渡良瀬遊水地ですが、今は利根川の治水のために必要なものになっていると思われます。

1970年以降の 渡良瀬遊水地の 洪水調節状況
(洪水調節容量 17,180万m³)

年 月	総貯留量(万m ³)
1972年9月(台風20号)	240
1982年8月(台風10号)	1,808
1982年9月(台風18号)	3,335
1991年8月(台風12号)	658
1998年8月(前線)	846
1998年9月(台風5号)	6,333
1999年8月(熱低)	301
2001年8月(台風11号)	213
2001年9月(台風15号)	8,118
2002年7月(台風6号)	7,828
2004年10月(台風22号)	169
2007年9月(台風9号)	5,365
2011年9月(台風18号)	4,938
2015年9月(関東・東北豪雨)	10,731
2017年10月(台風21号)	5,500
2019年10月(台風19号)	約16,000